

(様式1)

## 自己評価票

作成日 平成 26年 4 月 27 日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872800065		
法人名	社会福祉法人 慈光学園		
事業所名	北向内荘	ユニット名	北向内荘②
所在地	〒306-0504 茨城県坂東市生子1609-8		
自己評価作成日	平成 26 年 4 月 27 日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームの法人母体は、地域で長年にわたり障がい児・者関係の福祉施設を運営しており、経験豊富な職員が地域に根づいた交流を図りながら、利用者の介護等に努めている。「気兼ねなく暮らせる第二の我が家」を基本理念とし、全職員が各自の責任や役割のもと、利用者が居心地良く暮らせるように支援している。
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気兼ねなく暮らせる、第二の我が家」を基本に地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をつくり、誰もが目にする事ができる廊下や居間に提示している。管理者と職員は毎朝の申し送り時に理念を唱和して共有を図り、実践につなげるよう心がけている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、利用者は職員と一緒に地域の清掃活動やご家族と一緒に近くの神社の夏祭りに参加し、地域の人々との交流に努めている。ハーモニカ演奏、蕎麦打ちなどのボランティアや保育園児の来訪があり、利用者は日常的に地域の人々と交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人母体の行事などを一緒に行い、地域の方々を招待し交流すると共に介護支援専門員による介護相談を行っている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族や市職員、地域包括支援センター、民生員、区長、班長、駐在所、消防署などで2ヶ月に1回開催している。会議では利用状況や行事、事業計画を報告するほか意見交換を行い、意見等を職員会議で話し合いサービスの質の向上に活かしている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は運営推進会議や福祉施設事業者連絡協議会が開催する会議の機会を利用し、市担当者に相談をしたり情報交換をして協力関係を築くように努めている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束排除に向けたマニュアルを基に研修を行い身体拘束の内容とその弊害を正しく理解して身体拘束をしないケアに努めている。玄関が道路に面している為、危険防止の為家族等に説明をして同意を得たうえで施錠しているが中庭に出られるようにスロープ付きの出入り口を設け利用者が植物への水やり外気欲ができるように対応している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に高齢者虐待防止法について、職員全員で研修を行い、虐待が見過ごされることのないように注意を払い、防止に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時に権利擁護に関する制度について、全職員で学ぶ機会を作っている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分な説明を行い利用者や家族等の不安や疑問点を解決し、理解して納得していただいている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望などを言い出しにくい利用者や家族等に配慮して、無記名のアンケートを年に2回実施し、サービスの質の向上に活かしている。また、面会時や運営推進会議時には家族等の意見を聞くようにしている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター長は随時職員の個人面談をしている。必要な場合は随時面談をしている。また、職員から出た意見を受けて備品を購入したり勤務体制の配慮や研修受講の支援をしており、職員の意見等を運営に反映させている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常時事業所内に就業規則は備え付け、職員が必要な時に容易にみることができるようになっている。又、給与についても公務員に準じた給与規定により支給している。さらに、職員が必要な資格取得した場合昇給し、やりがいや向上心を持って働けるようにしている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格や職務経験、年数に応じて各種外部研修等に参加している。受講した職員は研修内容をミーティングで報告し、全員が研修内容を共有できるよう取り組んでいる。また、施設内の勉強会や研修も行っている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者は、市介護保険事業連絡協議会の施設サービス部会に積極的に参加し、地域との交流や情報交換を行い、サービスの質に活かしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の説明の際、家族等関係者と面談をし、本人の安心を確保できるよう努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の説明の際、家族等関係者と面談をし、家族の安心を確保できるよう努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の面談により、今必要としているサービスを見極め対応している。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と共に過ごしている中で、昔からの知恵や考えをきいて暮らしを共にする者同士の関係を築いている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には全員運営推進会議の構成員になっていただき、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は利用者との日常会話や家族等の話から、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を把握するとともに、馴染みの人がいつでも気軽に来訪できるように支援している。職員は利用者の馴染みの美容室や馴染みの公園などに行けるように支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、話し合えるような場所と時間を提供している。レクの時間など参加していただけるように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、本人・家族の状況変化に応じて支援を行っている。（再入居受入れや看取り後の家族への精神的より添い）
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居時のアセスメントで利用者の生活歴を把握するとともに、利用者がその人らしい暮らしを続けられるように日常の会話を通して希望や意向を聴いたり、家族等から情報を得ている。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス内容が理解できるように、入居の際はミーティング時に説明して把握できるように支援している。
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月毎の体重測定をしBMIを算出している。また、毎朝バイタル測定をし心身状態などの現状の把握に努めている。利用者一人ひとりの一日の過ごし方についてはフロアで談話やレクに参加されたり植木の手入れをされたりなど現状の把握に努めている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がアセスメントを行い、利用者や家族等の意見や要望を取り入れて介護計画案を作成し、更に職員会議で話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。介護計画は3ヵ月から6ヵ月で見直し利用者や家族等の同意を得ている。利用者の心身の状態や家族等の要望が変化した場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果や気づき、工夫を個別記録に記入し、申し送りをしながら実践や介護計画の見直しに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者で通院が必要になった時にご家族が通院介助ができないときや法事の付き添いなど支援している。また、利用者希望の美容室や買い物にいけるように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が美容室に行きたいとの話があった時は、なじみの美容室など継続して行けるように支援している。また、トマトの季節などいきなれた店に行けるように支援している。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望に沿ったかかりつけ医への受診をしている。利用者全員の健康チェックを毎日行っている。夜間の緊急時を含め24時間体制で協力医療機関に連絡が取れるよう連携を図っている。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職員がいるので、利用者の日常の健康状態や不安等を伝え、相談している。また、主治医も往診してくれるので適切な支援ができています。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際、本人・家族・病院関係者との情報交換や相談に努めている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期における対応指針を利用者や家族等に説明し同意を得ている。状況の変化に応じて段階毎に利用者や家族等と話し合いを行いながら対応している。以上のことについて全職員で共有し、チームで取り組んでいる。また、看取りに関する内部研修も行っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は救急法を学び、急変や事故発生時に備えて実践力を身につけている。また、年に2回消防署立会いのもと避難訓練を行なっているが、その際の講話では応急処置についてお話をいただいている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署立会いのもと地域住民の参加を得て避難訓練を実施し、うち1回は夜間を想定した訓練としている。避難訓練の記録を作成し課題を全職員で話し合っ共有している。災害時備えて発電機や乾電池、食料品等を備蓄している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルに添って職員研修を実施し、全職員が利用者の人格を尊重して誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は鍵のかかる書庫に保管している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝起きた時に洋服に着替える際、何枚か用意し選んでいただいている。お茶の時間は何が飲みたいか希望を聞いて選んでいただいている。 入浴も基本的には午前中となっているが午後を希望されればそのように対応している。
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の体調、心も状態を大切にし支援している。その人にとって大切なことは何かを一番に考えて支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族より本人の好んだ服を持ってきていただいている。また、使い慣れたくしや鏡を持ってきていただき使用されている。着替えの際は、本人に選んでいただいている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は自家菜園で収穫した野菜のほか宅配業者に委託している。利用者は出来る範囲で食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、介助や見守りをしながら一緒に食事をしている。外食を取り入れ食事が楽しみになるように支援している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は食事毎にチェックしている。栄養のバランスも高齢者のための食事メニューを利用している。利用者が食べやすいように、刻み食やミキサー食にしての提供もおこなっている。また、おはぎや柏餅など季節感を感じられるものを取り入れている。
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと入れ歯の洗浄を行っている。自分の歯の方には歯ブラシにおける歯磨きを行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握すると共に、タイミングを見計らって声掛け誘導している。トイレでの排泄や自立に向けた支援を大切に、布パンツを使用している支援を心掛けている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに補給していただくようにしている。食材も野菜を多くし、繊維を多く摂って頂くようにしている。また、歩行訓練やリハビリ体操等おこない便秘の予防に努めている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は基本的には週3回と決まっているが、利用者の希望にそっていつでも入浴が出来るように支援している。入浴剤を使用したり菖蒲湯や柚子湯などで入浴を楽しめるように工夫している。入浴を拒む利用者には、声掛けや担当者を替える等工夫しながら支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中眠たそうな時は、居室で横になっていたいたり、ソファで横になっていたいたり休息していただけるように支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者内服一覧表を看護師に作っていただいております。一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。変更がある場合には申し送りノートにより徹底しておこなっている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭いじりの好きな人、畑仕事の好きな人など、その人の得意なことをやっていたり。また、饅頭作り、洗濯物たたみをしていただいたり、午後ディサービスのレクにも参加していただいている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員は、利用者が買い物に出かけたい時や、お墓参りに出かけた時などの希望がある時は、付添っている。また、急な通院等家族が付き添うことが出来ない時は通院できるように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族から小遣いを預り、買いたいものがある時は一緒に行けるように支援している。お祭りの時は一人ひとり財布を持ち、露天商で好きな物を買っている。また、お金の管理が多少出来る利用者には管理していただき、自由におやつ等の買い物のできるように支援している。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人が家族や親戚に電話を掛けたいと言っている時は、事務室から掛けていただいている。また手紙のやり取りをしたい人にはできるように支援している。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関付近に季節を感じられる鉢植えを設置したり、居間に利用者が制作したちぎり絵やぬり絵などを飾っている。居室や今から中庭が眺められ、利用者は季節の風景や草花を眺めながら居心地よく過ごしている。また、利用者は庭に咲いている花を摘み、今のテーブルに飾っている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>全員個室になっているので、ひとりになりたいときや面会の人 came 時は気兼ねなく過ごせる。また、気の合う人を自分の部屋に招き一緒にテレビを見たりして過ごされている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室や居間は床暖房になっており、ナースコールやエアコン、クローゼット、カーテンが備え付けられている。利用者は居室に使い慣れた家具や馴染みの物品を持ち込んでいるほか家族等の写真や家族等が制作した作品を飾るなど、居心地よく暮らせるように工夫している。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は安全かつできるだけ自立した生活が送れるようにバリアフリーになっており、トイレもドアを開けると電気がつくようになって夜間も安全である。全室ナースコールもあり、いつでも職員を呼べるようになっていいる。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

